

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

がん検診の精度管理における指標の確立に関する研究

研究代表者 高橋 宏和 国立がん研究センターがん対策研究所 室長

研究要旨

本研究では、がん検診の精度管理における指標を確立することを目的とする。住民検診においては、これまでの住民検診の精度管理体制を見直し、チェックリストおよびプロセス指標の改定を検討する。また、地域保健・健康増進事業報告の項目や利活用法をわかりやすく整理する。職域検診においては、平成30年にとりまとめられた「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する指標を見直し、実施主体である保険者や事業者の実情を踏まえた改定を提案する。さらに、レセプト情報を用いたこれまでの検討をもとに、がん検診に関するデータの利活用を検討する。令和4度は、班会議を2回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。班会議において、がん検診の提供体制、健診標準フォーマット、がん検診における判定区分、プロセス指標の新基準値、レセプト情報を用いたがん検診に関するデータの利活用に関する検討を中心に議論を重ねた。がん検診の精度管理の課題として、組織型検診に向けた整備、職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知、がん検診教育プログラム、人間ドックなどにおけるがん検診の判定基準の統一などが挙げられ、引き続きほかの厚労科研研究班や学会などとの連携し、課題解決することが求められる。本年度の成果については、厚生労働省「第37回がん検診のあり方に関する検討会」に報告しており、引き続き成果の公表および情報提供を適宜行う。

A. 研究目的

日本におけるがん検診は、実施主体により地域住民検診（住民検診）および職域検診に大別されるが、その精度管理の状況は異なる。健康増進法のもとに、精度管理が整備されてきた住民検診と異なり、職域検診においては根拠となる法令がなく、多くの場合保険者や事業主により福利厚生の一環として提供されており、精度管理はされていないのが現状である。がん検診を行うことにより利益と不利益が生じるが、精度管理を適切に行うことで、利益を最大化し不利益を最小化することが可能となるため、がん検診のプログラムのいづれにおいても精度管理体制が整備され、検診の質を高めることが、国全体のがんの死亡率減少につながる。

本研究では、住民検診においては、これまでの住民検診の精度管理体制を見直し、チェックリストおよびプロセス指標の改定を検討する。また、地域保健・健康増進事業報告の項目や利活用法をわかりやすく整理する。職域検診においては、平成30年にとりまとめられた「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する指標を見直し、実施主体である保険者や事業者の実情を踏まえた改定を提案する。さらに、レセプト情報を用いたこれまでの検討をもとに、がん検診に関するデータの利活用を検討する。

B. 研究方法

○住民検診

1. 住民検診における精度管理体制の検討

がん検診の精度管理は、「がん検診の適切な把握法及び精度管理手法の開発に関する研究」（平

成30年～令和2年度、代表者：高橋宏和）においてこれまで検討されてきたが、精度管理の指標となるチェックリスト実施率やプロセス指標のモニタリングおよび評価・改善への取組を継続することにより、その体制を整備している。本研究では、これまでの検討を継続しつつ、実施主体となる自治体が受診者に対してより適切な受診行動を提供できる方策を、また不利益よりも利益が上回る検診を提供できるような方策を検討する。

2. 地域保健・健康増進事業報告の項目および利活用法の検討

地域保健・健康増進事業報告は、毎年市区町村から都道府県を通じて国に報告され、がん検診などの現状を把握し、適切な対策を検討するための資料となるが、項目が多く複雑であるなど問題点が指摘されていることから、簡素化することががん検診のあり方に関する検討会において求められている。また、自治体における利活用が進んでいないことから、わかりやすい利活用法が望まれている。本研究では、これらに対する解決策を検討し、自治体の精度管理機能の向上を目指す。

上記の検討は、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」で推奨されている、5つのがん種の検診に精通している分担研究者を中心に実施する。具体的な役割は次の通りとする。（胃がん：加藤、大腸がん：斎藤・松田、肺がん：佐川・中山、子宮頸がん：青木・森定、乳がん：笠原、アセスメント：細野、マネジメント：町井）

○職域検診

1. 「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する検討

職域検診における指針として、平成30年に「職域におけるがん検診に関するマニュアル」が示されたが、解釈が難しく利活用は進んでいない。特に、チェックリストやプロセス指標に関する項目については、現状と乖離している箇所が指摘されている。これらの改善点を検討することにより、実施主体となる保険者や事業主の利活用を促し、職域における精度管理の水準が向上するよう検討する。

2. レセプト情報を用いたがん検診に関するデータの利活用に関する検討

がん検診の精度管理が整っている欧州の国などでは、がん検診に関するデータは一元管理され、即時性が高く、有事における対応や研究への利活用が進んでいる。日本では、がん検診データは主にそれぞれの実施主体が管理していることに加え、個人情報保護の観点などからその運用は限定的である。一方で、レセプト情報によるがん患者の特定などにより、職域におけるがん検診の精度管理への応用が期待されている。本研究では、レセプト情報のがん検診への活用に関するこれまでの検討を踏まえ、妥当性の評価や具体的な利用法を協力保険者において実施し、実装化に向けた検討を行う。

上記の検討は、レセプト情報のがん検診への利活用に精通している分担研究者（祖父江、小川、立道、雑賀）を中心に実施する。具体的な役割は次の通りとする。（抽出ロジックの検討：小川・祖父江、妥当性検討：小川・祖父江・立道・雑賀）

○関連研究との連携

本研究の実施にあたり、関連する厚生労働科学研究補助金による研究「がん検診事業の評価に関する研究（代表者：高橋宏和）」、「職域における、より質の高いがん検診を提供するための研究（代表者：祖父江友孝）」における取組と連携するよう努める。

（倫理面への配慮）

「ヘルシンキ宣言」「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」を遵守して人権擁護に配慮する。なお、本研究は既存資料を用いた観察研究のため、対象となる個人に直接的な介入はなく、個人の権利は擁護されると考える。

C. 研究結果

令和4年度は、班会議を2回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。本年度の結果を以下にまとめる（詳細は研究分担者の研究報告書参照）。

○今後の日本におけるがん検診の提供体制の課題

- ・ 組織型検診に向けた整備
- ・ 職域検診と住民検診の連携による、受診しやすい体制の構築
- ・ 職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知
- ・ 医学生教育・医師会教育プログラム・産業医教育におけるがん検診教育の導入・拡充

○健診標準フォーマットについて

- ・ 人間ドックにおけるがん検診の判定基準の統一
- ・ 人間ドックにおけるがん検診の精度管理

○レセプトを用いたがん検診の精度管理

- ・ レセプトと検診結果を突き合わせた、プロセス指標、感度・特異度算定システムの構築
- ・ 精検受診者抽出ロジック・がん患者特定ロジックの検討

○プロセス指標新基準値

- ・ がん検診の精度管理水準の向上に伴い、プロセス指標の基準値を現状に合わせ修正
- ・ 男女別・年齢階級別・初回非初回別などに各プロセス指標の基準値を設定し、対象集団の構成によりそれぞれ基準値を算出することを想定
- ・ 日本全体の人口構成による基準値を算出し第37回がん検診のあり方に関する検討会に報告

D. 考察

班会議の議論において、平成4年度はがん対策推進基本計画の改定時期となったため、今後の日本におけるがん検診の提供体制の課題が多く取り上げられた。がん検診による死亡率減少効果を高めるために、組織型検診に向けた整備が必要であり、現状では乖離の大きい住民検診と職域検診の統合に向けた議論は引き続き検討する必要がある。また、職域検診と住民検診の連携による、受診しやすい体制の構築や職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知および、医学生教育・医師会教育プログラム・産業医教育におけるがん検診教育の導入・拡充についても、関連学会・団体などと連携して取り組む必要がある。

E. 結論

第4期がん対策推進基本計画においては、がん検診の精度管理はその充実が掲げられている。来年度は引き続き専門家や関係者の多くの意見を集約し、より良い体制整備などに関して検討し、成果については適宜がん検診のあり方に関する検討会などに報告する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者：高橋宏和

- 1) Akiyama M, Ishida N, Takahashi H, Takahashi M, Otsuki A, Sato Y, Saito J, Yaguchi-Saito A, Fujimori M, Kaji Y, Shimazu T; INFORM Study Group. Screening practices of cancer survivors and individuals whose family or friends had a cancer diagnoses—a nationally representative cross-sectional survey in Japan (INFORM Study 2020). *J Cancer Surviv.* 2023 Apr 12;1-14. doi: 10.1007/s11764-023-01367-4. Online ahead of print.
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. *JCO Glob Oncol.* 2023 Jan;9:e2200222. doi: 10.1200/GO.22.00222.
- 3) Machii R, Takahashi H. Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. *Cancer Epidemiol.* 2023 Feb;82:102313. doi: 10.1016/j.canep.2022.102313.
- 4) Okuyama A, Watabe M, Makoshi R, Takahashi H, Tsukada Y, Higashi T. Impact of the COVID-19 pandemic on the diagnosis of cancer in Japan: analysis of hospital-based cancer registries. *Jpn J Clin Oncol.* 2022 Oct 6;52(10):1215-1224. doi: 10.1093/jjco/hyac129.
- 5) Yamada Y, Fujiwara M, Shimazu T, Etoh T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N, Inagaki M. Patients' acceptability and implementation outcomes of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia: a qualitative secondary analysis of a mixed-method randomised clinical trial. *BMJ Open.* 2022 Jun 14;12(6):e060621. doi: 10.1136/bmjopen-2021-060621.
- 6) Otsuki A, Saito J, Yaguchi-Saito A, Odawara M, Fujimori M, Hayakawa M, Katanoda K, Matsuda T, Matsuoka Y, Takahashi H, Takahashi M, Inoue M, Yoshimi I, Kreps GL, Uchitomi Y, Shimazu T. A nationally

representative cross-sectional survey on health information access for consumers in Japan: A protocol for the INFORM Study. *World Medical & Health Policy.* 2022;1-51. DOI: 10.1002/wmh3.506

- 7) Saito J, Odawara M, Takahashi H, Fujimori M, Yaguchi-Saito A, Inoue M, Uchitomi Y, Shimazu T. Barriers and facilitative factors in the implementation of workplace health promotion activities in small and medium-sized enterprises: a qualitative study. *Implement Sci Commun.* 2022 Mar 2;3(1):23. doi: 10.1186/s43058-022-00268-4.
- 8) 高橋宏和. がん検診の必要性. 厚生労働 2023.01 Page 10-11
- 9) 加藤勝章, 青木利佳, 安保智典, 小田丈二, 小池智幸, 高橋宏和, 平川克哉, 山道信毅. 2019年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告 日本消化器がん検診学会雑誌 61(1),2023/01
- 10) 松本綾希子, 奥山絢子, 後藤温, 町井涼子, 祖父江友孝, 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症の流行によるがん医療の受療状況の変化. 日本公衆衛生雑誌 69(11): 903-907, 2022/11
- 11) 高橋宏和. 乳癌検診に関する調査と現状 *Rad Fan* 20(12): 2022/10
- 12) 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄. 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. 厚生の指標 69(8): 14-22, 2022/8
- 13) 高橋宏和. COVID-19 のがん検診およびがん診療への影響. 日本医師会雑誌 151(5): 795-799, 2022/8
- 14) 高橋宏和. 職域がん検診の現況と課題. 日本医師会雑誌 151(5): 791-794, 2022/8
- 15) 齋藤義正, 高橋宏和, 若尾文彦. がん対策推進基本計画に基づいたがん化学療法チーム研修の役割. 日本公衆衛生雑誌 69(7): 527-535, 2022/7

研究分担者：齋藤博

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023.

研究分担者：佐川元保

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. *JCO Glob. Oncol.* 9, 2023
- 2) 佐川元保. 肺がん検診に関わる最近の動き：肺

がん検診における胸部X線読影医要件の設定、肺がん検診ガイドラインの改訂. 臨床放射線 68(1) : 1-8, 2023

- 3) 佐川元保, 桜田晃, 芦澤和人, 前田寿美子, 中山富雄, 負門克典, 玄馬顕一, 小林健, 鳥居陽子, 竹中大祐, 丸山雄一郎, 三友英紀, 室田真希子, 梁川雅弘, 澁谷潔, 祖父江友孝, 原田眞雄, 三浦弘之. 肺がん検診ガイドラインの2022年改訂. 肺癌 62(5): 351-354, 2022
- 4) 佐川元保. 肺がん検診の要点. 日本医師会雑誌 151(5): 777-780, 2022
- 5) 肥田泰三、坂本周三、貝瀬恵、佐藤秀一、加藤剛、菅野通、高橋里美、松田堯、渡辺彰、野津田泰嗣、佐川元保、齋藤泰紀. 当法人肺がんCT検診の実績と要精検症例の経過観察期間の検討. CT検診 29(2): 53-60, 2022
- 6) Shimada D, Sagawa M, Seki M. Detection of Mycobacterium avium-intracellulare Complex (MAC) by Bronchial Lavage and the Relationship with Titers of Anti-Glycopeptidolipid-Core IgA Antibodies to MAC in Patients with Pulmonary MAC Disease. Infect Drug Resist 16: 977-984, 2023

研究分担者：青木大輔

- 1) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol. 34(1), 2023
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023

研究分担者：松田一夫

- 1) 松田一夫. 適切ながん検診を支援する取り組み. 日本医師会雑誌. 151(5) : 801-805, 2022
- 2) 松田一夫. 大腸癌はどれだけ見落とされているのか—大腸がんスクリーニングの現状と最近のトピックス. 臨床消化器内科. 37(6) : 609-614, 2022

研究分担者：笠原善郎

- 1) 笠原善郎, 加藤久美子. 乳がん検診の要. 日本医師会雑誌 151(5): 781-785, 2022
- 2) 笠原善郎, 宇佐美伸, 辻一郎, 古川順康, 安藝史典, 大村東生, 隈浩司, 鯉淵幸生, 坂佳奈子, 藤吉健児, 増田裕行, 村田陽子, 森田孝子, 吉田雅行. 第12回全国集計報告—事業評価の観点から—乳がん検診の全国集計2022(対象2019年度) 日乳癌検診学会誌 32(1): 67-76, 2023

研究分担者：中山富雄

- 1) 中山富雄. 低線量 CT 肺がん検診の評価と現状. 最新臨床肺癌学—診断・治療の最前線—日本

臨牀 80(増刊 8):161-166, 2022

- 2) 中山富雄. 欧州・アジアでの低線量 CT 検診の検診プログラム導入への動き. CT 検診 29(2):3-8, 2022

研究分担者：小川俊夫

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023

研究分担者：齋藤英子

- 1) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol. 34(1), 2023
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023
- 3) 佐々木寛, 植松孝悦, 明石定子, 植田政嗣, 浦井典子, 大村峯夫, 木口一成, 齋藤英子, 小田瑞恵, 鈴木美香, 杵本朋子, 中井昌弘, 原田成美, 横尾郁子. 2021年度 女性のための健診・予防医療のあり方検討委員会—子宮頸がん検診に関するアンケート調査結果—. 人間ドック. 37(1): 83-103, 2022

研究分担者：森定徹

- 1) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol. 34(1), 2023
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023

研究分担者：雑賀公美子

- 1) Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D. Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol. 34(1), 2023
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara

Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: A feasibility study. JCO Glob. Oncol. 9, 2023

研究分担者：町井涼子

- 1) 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. Journal of health and welfare statistics 69 (8): 14-22, 2022

2.学会発表

研究代表者：高橋宏和

- 1) Takahashi H. Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. World Cancer Congress 2022, Geneva, 2022/10/18
- 2) 高橋宏和. がん検診事業評価の現状と方向性について. 第 32 回日本乳癌検診学会学術総会シンポジウム, 浜松, 2022/11/12
- 3) 高橋宏和. がん検診の適切な受け方. 第 60 回日本癌治療学会学術集会 市民公開講座, 高崎, 2022/10/23
- 4) 町井涼子, 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症による住民がん検診の受診者数への影響. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 口演, 甲府, 2022/10/9
- 5) 岡田結子, 高橋宏和, 雑賀久美子, 渋谷克彦. 国内契約健診機関の「がん検診精度管理」実態把握と職域における課題の検討. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 口演, 甲府, 2022/10/9
- 6) 齋藤英子, 堀芽久美, 大久保亮, 小手森綾香, 街勝憲, 清水陽一, 高橋宏和. 乳がんサバイバーにおける身体活動介入の費用対効果：マイクログシミュレーション研究. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 ポスター, 甲府, 2022/10/8
- 7) 高橋宏和. がん検診精度管理における基準値の変更について. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 要望講演 Web, 2022/9/2
- 8) 高橋宏和. 新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響. 第 61 回日本消化器がん検診学会総会 パネルディスカッション, Web, 2022/6/10

研究分担者：齋藤博

- 1) 雑賀公美子, 齋藤 英子, 齋藤 博. 子宮頸がん検診の精検受診の課題 自治体格差や年齢格差について, 第 37 回日本女性医学学会学術集会, 2022/11/12-13

研究分担者：佐川元保

- 1) 佐川元保. CT 肺がん検診を対策型検診とするためには？：有効性のエビデンスとガイドラ

イン改訂. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会. 2022/9/28. 東京. 国内、口頭.

- 2) 宮澤 仁, 相川小夜, 須藤恵美, 小原愛美, 中山富雄, 佐川元保. JECS 研究における追跡調査の現状と課題：第二報 (2022 年度住民票照会結果進捗報告). 第 30 回日本 CT 検診学会学術集会, 2023/2/18, 熊本. 国内、口頭.
- 3) 佐々木高信, 吉村 成央, 野々村遼, 大島穰, 三友英紀, 石橋直也, 菅原崇史, 田畑俊治, 手塚則明, 佐川元保, 近藤 丘. Pembrolizumab 単剤の長期治療成績の検討. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022/12/1-3, 福岡. 国内、口頭.
- 4) 石橋直也, 田畑俊治, 野々村遼, 大島穰, 佐々木高信, 三友英紀, 菅原崇史, 佐川元保, 近藤 丘. 病理病期別にみた開胸時洗浄細胞診陽性例の検討. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022/12/1-3, 福岡. 国内、口頭.

研究分担者：青木大輔

- 1) 森定徹, 河野加奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2022/11
- 2) 青木大輔: 招待講演 HPV ワクチンの現況. 新宿区医師会 HPV ワクチン学術講演会 (Web), 2022/11
- 3) 青木大輔: 基調講演日本の子宮頸がん検診のあり方. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜・Web), 2022/10
- 4) 青木大輔: 子宮頸がん健診における HPV 検査導入に際して. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 (千葉・Web), 2022/9
- 5) 青木大輔: 招待講演 HPV ワクチンの現況. 第 10 回玉川・世田谷区産婦人科医会合同学術講演会 ~ 医師・コメディカルの皆様へ ~ (Web), 2022/7
- 6) 森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6/10.
- 7) 西尾 浩, 岩田 卓, 青木大輔: シンポジウム子宮頸部細胞診において AGC と診断された症例の最終診断とその問題点. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京・Web), 2022/6

研究分担者：松田一夫

- 1) 松田一夫. 第 61 回日本消化器がん検診学会総会 シンポジウム「ICT を駆使したがん検診のこれから」司会. 2022/6/10 (Web にて).
- 2) 松田一夫. 日本における TCS 検診導入への期待とその意義:「欧米との比較も含めて」. 第 61 回日本消化器がん検診学会総会 ワークショップ「きたるべき大腸内視鏡検診を見据えて」基調講演とコメンテーター. 2022/6/11 (Web にて).

- 3) 松田一夫. 本邦における便潜血検査を用いた大腸がん検診の現状と課題. 第 60 回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2022) パネルディスカッション 4「死亡率減少を目指した大腸がん検診」基調講演. 2022/10/27
- 4) 松田一夫. 日本の大腸がん死亡を減らすために私たちは何をすべきか? 第 51 回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会 特別講演. 2022/11/26

研究分担者：筈原善郎

- 1) 第 12 回全国集計報告 全国集計 2019 年版 日本乳癌検診学会全国集計委員会 筈原善郎, 宇佐美伸, 辻一郎, 古川順康, 安藝史典, 大村東生, 隈浩司, 鯉淵幸生, 坂佳奈子, 藤吉健児, 増田裕行, 村田陽子, 森田孝子, 吉田雅行. 第 32 回日本乳癌検診学会学術総会 2022/11/12 浜松 国内、口頭
- 2) 『がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針』の改正とプレスト・アウェアネス、高濃度乳房について 筈原善郎 第 30 回がん検診診断学会総会 2022/9/29 国内、WEB 口頭
- 3) 乳がん検診に関する最近の話題と『がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針』の改正点について 筈原善郎 第 30 回がん検診診断学会総会 pre-web seminar 2022/7-9 国内 WEB 公開 口頭

研究分担者：中山富雄

- 1) 中山富雄. 欧州・アジアでの検診プログラム導入への動き. 第 29 回日本 CT 検診学会学術集会. ラウンドテーブルディスカッション 2022/2/25 仙台
- 2) 中山富雄. がん検診における細胞診の意義. ー子宮頸がん、肺がんを中心にー. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 要旨講演 2022/9/2 千葉
- 3) 中山富雄. Sustainable な肺がん検診制度管理体制の整備ーHow to 症例検討会. 第 63 回日本肺癌学会学術集会. 肺がん検診読影セミナー 2022/12/3 福岡

研究分担者：小川俊夫

- 1) 小川俊夫. 職域がん検診の最前線：研究者の立場から. 第 62 回近畿産業衛生学会シンポジウム 2022/10/22 大阪
- 2) 工藤孝典、小川俊夫、祖父江友孝. 大腸がん検診及び精密検査受診ががん医療費に与える影響. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 2022/10/8 山梨
- 3) 小川俊夫、祖父江友孝. レセプトを用いたがん検診のがん医療費に与える影響に関する一考察. 第 95 回日本産業衛生学会総会 2022/5/26 高知

研究分担者：齊藤英子

- 1) 雑賀久美子, 齊藤英子, 斎藤博：長野県下での子宮頸がん検診の精検受診の課題 ー自治体格差や年齢格差について. 第 37 回日本女性医学学会総会. 2022/11
- 2) 森定徹, 河野加奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔：HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2022/11
- 3) 青木大輔：招待講演 HPV ワクチンの現況. 新宿区医師会 HPV ワクチン学術講演会 (Web), 2022/11
- 4) 齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博：神奈川県下自治体での子宮頸がん検診の精検受診の実状と改善のための具体策について. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会. 2022/10
- 5) 齊藤英子, 雑賀公美子, 小田瑞恵, 木口一成, 植松孝悦, 佐々木寛, 青木大輔：検診機関における検診委託元別のがん検診精度管理状況 ー子宮頸がん検診・乳がん検診での検討 ー. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会. 2022/9
- 6) 小林沙央里, 齊藤英子, 富樫理子, 桂研一郎：子宮頸がん検診における検診間隔についての受診者の記憶の妥当性の検討. 第 63 回日本人間ドック学会学術集会. 2022/9
- 7) 青木大輔：招待講演 HPV ワクチンの現況. 第 10 回玉川・世田谷区産婦人科医会合同学術講演会 ～医師・コメディカルの皆様へ～ (Web), 2022/07
- 8) 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔：実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6/10
- 9) 齊藤英子：HPV 単独法 (HPV primary screening) を念頭に置いた精度管理 (マネジメント) の課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6

研究分担者：森定徹

- 1) 森定徹, 河野加奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔：HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会. 2022/11
- 2) 森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔：実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2022/6/10

研究分担者：雑賀公美子

- 1) 雑賀久美子, 齊藤英子, 斎藤博：長野県下での子宮頸がん検診の精検受診の課題 ー自治体格差や年齢格差について. 第 37 回日本女性医学学会総会. 2022/11
- 2) 森定徹, 河野加奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青

木大輔：HPV 検査を用いた検診の有用性を検証する RCT と細胞診陰性／HPV 陽性者の管理．第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会．2022/11

- 3) 齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博：神奈川県下自治体での子宮頸がん検診の精検受診の実状と改善のための具体策について．第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術集会．2022/10/16
- 4) 齊藤英子, 雑賀公美子, 小田瑞恵, 木口一成, 植松孝悦, 佐々木寛, 青木大輔：検診機関における検診委託元別のがん検診精度管理状況－子宮頸がん検診・乳がん検診での検討－．第 30 回日本がん検診・診断学会総会．2022/9
- 5) 森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔：実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題．第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会．2022/6/10
- 6) Okada Y, Takahashi H, Saika K, Shibuya K. プロセス指標を用いた職域におけるがん検診精度管理について, 第 5 回産業保健情報・政策研究会, 2022/5/2
- 7) 雑賀公美子, 齊藤 英子, 斎藤 博. 子宮頸がん検診の精検受診の課題 自治体格差や年齢格差について, 第 37 回日本女性医学学会学術集会, 2022/11/12-13

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

小川俊夫. 指標算出装置、指標算出方法、およびプログラム (特願 2022-083546) 、2022 年 5 月 23 日提出.

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし